

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し、自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校
 生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- (1) 自己を高める力(確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志)の育成
- (2) 人とつながる力(人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切にし、周囲と協力し合う力)の育成
- (3) 社会に貢献する力(地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力)の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) エンパワメントスクール(総合学科)として選択科目及びエンパワメントタイムの学習内容の充実と新学習指導要領における教育活動の充実を図る。
*生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度)を令和7年度に75%以上とする。
(R2;74.7%、R3;69.7%、R4;73.9%)

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切にす生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。
*中途退学率を令和6年度には5%以下とする。(R2;4.1%、R3;5.1%、R4;4.3%)
- (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー(SC)スクールソーシャルワーカー(SSW)キャリア教育コーディネーター(CC)との連携を密にし、教育相談体制を充実させ、安心して学ぶことができる環境整備を確保するとともに、配慮や支援を必要とする生徒情報を関係者が共有し計画的に生徒支援や進路支援をしていく。
*生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和7年度にも75%以上を継続する。(R2;74.0%、R3;69.4%、R4;77.6%)
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 外国にルーツがある生徒が多い学校として「多様性」を大切に、学習保障と進路保障支援を行うとともに、一人ひとりの力を最大限に伸ばす教育を進める。
*生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和7年度にも80%以上を継続する。(R2;87.9%、R3;76.9%、R4;83.6%)

3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後をみすえた進学・就職支援(勤労観・職業観・社会人基礎力を養い、将来の自分の生き方に展望を持つための働きかけ)を積極的に行う。
- (2) 学ぶ、働く、自分らしく生きることの大切さを理解し自己肯定感を育めるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
*進路決定率を令和7年度には85%以上とする。(R2;85.2%、R3;84.5%、R4;79.9%)
*生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和7年度にも85%以上を継続する。(R2;87.5%、R3;82.5%、R4;85.6%)

4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。
*生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価(学校生活満足度)を令和7年度には75%以上とする。
(R2;74.6%、R3;64.9%、R4;71.8%)
*生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価(エンパワメントスクール満足度)を令和7年度も80%以上を維持する。(R2;86.4%、R3;78.5%、R4;83.6%)
- (2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

5 教職員の働き方改革を進める

- (1) ノークラブデー・全庁一斉休日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。
- (2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。
*時間外勤務の年間平均時間を令和7年度には320時間以下とする。(R2;325時間47分、R3;361時間52分、R4;321時間35分)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和3年度値]	自己評価
<p style="text-align: center;">1 学習活動の充実</p>	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、生徒が「わかった」「楽しい」と思う授業展開</p> <p>(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実</p> <p>(3) 教職員の授業力の向上</p>	<p>(1) ア 授業規律を一致して指導し、授業を通じた生徒指導を行うことで、落ち着いた授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力の定着を図り、生徒の自己肯定感を高める。 ウ ユニバーサルデザインの観点から、生徒が集中して学べる学習の取組みを進める。</p> <p>(2) ア 1人1台端末の積極的利活用等、エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型(主体的・対話的で深い学び)授業を充実させる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムを通して、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育む。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。</p> <p>(3) ア テーマを決めて、計画的に授業公開週間を設定し、授業の工夫や授業方法・指導方法について、法定研修の研究授業等を活用しながら、教科会等教職員が互いに学び合う場を増やす。 イ 1人1台端末の利活用を推進する等、「主体的・対話的で深い学び」の深化を図る。 ウ 観点別学習状況評価導入2年めにあたり、昨年実施学年の気づきや改善点を共有する機会を増やす。</p>	<p>(1) ア ・授業中における懲戒生徒数 10人以下継続 [6人] イウ ・生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価 85%以上継続 [89.7%] ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度) 70%以上継続 [73.9%]</p> <p>(2) アイ ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価 80%以上維持 [86.9%] ・教員学校自己診断「参加体験型の学習等指導の工夫改善を行っている」肯定的評価アップ [84.8%] ・インターンシップ出席率の維持 [99.4%] ・デュアル実習出席率の維持 [94%] ウ ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価アップ [49.1%]</p> <p>(3) ア ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ [53.6%] イ ・生徒学校教育自己診断「コンピュータやプロジェクター利用・端末の利用」肯定的評価 90%以上継続 [91.2%] ウ ・授業公開週間等を活用し、教科会議で検討・共有する機会を持つ。</p>	
	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実</p>	<p>(1) ア 丁寧な遅刻指導、頭髪指導や服装指導等による規範意識や基本的な生活習慣、生徒の自主性を醸成する。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問等、保護者との連携により信頼関係を築き、生徒理解につなげる。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施し、一人ひとりを大切にする生徒指導やキャリア教育に活用する。</p>	<p>(1) アイウ ・懲戒生徒人数の減少 [57人] ・中途退学者率 5%以下 [4.3%] ・欠席延人数の減少 [6968人] ・遅刻延人数の減少 [5064人]</p>	

<p>2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり</p>	<p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p> <p>(3) 人権教育の推進</p>	<p>(2) ア 要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、教育活動全般に活かす。専門人材(SC及びSSW等)との連携を強化し要配慮生徒のケース会議を実施する。また、生徒の状況やニーズに応じた学習支援等、支援体制や学習環境を充実させる。</p> <p>イ 子ども家庭センター等、外部機関との連携を拡充し、教育相談を充実させる。</p> <p>ウ 学校生活等で悩みを相談できる居場所の設置や専門人材(SC・SSW)等による生徒や保護者への支援を拡充し、学校生活をサポートする教育相談体制を充実させる。</p> <p>エ 学校行事、生徒会行事、部活動等、生徒活躍の場(自主的活動の場)を活発にし、生徒の高校生活の充実につなげる。</p> <p>(3) ア 生徒対象の人権学習を系統的に実施する。また、薬物乱用防止、性に関する指導、がん教育等の講演会を計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、教育相談、支援教育をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 外国にルーツがある生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め(多文化研究部の発表等)、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>(2) アイウ ・生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価70%以上[69.7] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価80%以上継続[89.1%※R3:63.0%] ・専門人材や外部機関とも連携したケース会議の迅速実施 ・教育相談室の定期的な開室(週3回程度)</p> <p>エ ・生徒学校教育自己診断「学校・自クラスが楽しい」の肯定的評価75%以上継続[79.3%] ・生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価アップ[78.0] ・体育祭、文化祭の生徒の出席率90%以上継続[体育祭96.6%・文化祭90.0%]</p> <p>(3) ア ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価75%以上継続[83.6※R3:76.9]</p> <p>イ ・教職員研修年間3回以上[5回]</p> <p>ウ ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価60%以上継続[65.2%※R3:50.9%]</p>	
<p>3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 地域等との連携強化</p>	<p>(1) ア 職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人が夢や志を持って自己の可能性を広げたり、進路設計への主体的意識を高めたりできるよう支援する。</p> <p>イ 進路講演等体系的なキャリア教育を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。</p> <p>(2) ア コロナ禍後に備え、デュアルシステム協力企業・施設等との連携を継続し、持続可能な本校のデュアルシステムを追求していく。</p> <p>イ 地域資源を活用する等地域とのつながりを発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。</p> <p>ウ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。</p>	<p>(1) アイ ・進路未定率20%以下継続[20.1%] ・学校斡旋就職内定率80%以上継続[89.0%] ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価80%以上継続[85.6%]</p> <p>(2) アイ ・地域協働本部と連携したデュアルシステム意見交換会の開催[1回] ・デュアル地域協働本部の開催年間3回以上[3回] ・教員学校教育自己診断「デュアルシステム等地域連携を教育活動に生かしている」肯定的評価85%以上維持[89.1%]</p> <p>ウ ・教員・生徒による地域の外部機関のイベント、会合への積極的参加[4回]</p>	
<p>4 エンパワメントス</p>	<p>(1) 教育活動の充実</p>	<p>(1) ア HR活動、学年行事や課外活動を、生徒が主体的に活躍できる場を多くし、エンパワメントスクールの教育活動を充実させる。 イ キャリアコーディネーター(CC)等外部人材の活用を進める。</p>	<p>(1) アイ ・生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価(エンパワメントスクール満足度)80%以上維持[83.6%]</p>	

<p>クールの教育活動充実と積極的な情報発信</p>	<p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容とその特色・魅力について発信する。 イ 本校の活動状況を、ホームページ(HP)や様々な媒体を活用し、中学生・保護者・地域への魅力的でわかりやすい情報発信を充実させる。 ウ PTA・同窓会との連携を充実するとともに、学校行事への参加や PTA 活動への参加を呼び掛け、活性化させる。</p>	<p>(2) ア ・広報を目的とした、全職員による中学校訪問の継続[53校] ・学校説明会参加者総数アップ[479人] イ ・様々な媒体を活用した学校の魅力発信 ・HPのブログ更新60回以上[95回] ウ ・保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」評価40%以上[未実施]</p>	
<p>5 教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(1) 働き方改革</p>	<p>(1) ア 全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施の徹底等、働き方改革を常に教職員に意識をさせ、仕事の効率化を図る。 イ 時間外勤務の多い人の状況を把握し、声掛けするとともに、時間外勤務時間個票の配付を継続して健康管理への留意を促す。</p>	<p>(1) アイ ・職員会議のペーパーレス化、デジ楽採点、校務の情報化等を実施 ・時間外勤務の年間平均時間360時間以下[321時間35分] ・月80時間超過者の延べ人数の減少[15人]</p>	